2009 NAGASAKI
JC NEWS
11
Vol.633
http://www.nagasaki-jc.jp/
JCI

JCの誇りを胸に 今 何を為すべきか 自問自答し 行動しよう

対談 幕末の志士龍馬を支えたのは長崎の先人であることを認識しよう!

NHK大河ドラマ「龍馬伝」放送に向けて、舞台となる長崎では今、福山雅治演じる幕末の風雲児坂本龍馬への関心が高まっています。「龍馬伝」放送をきっかけに、長崎観光をどう盛り上げていけばよいか。日本近世史に詳しい長崎歴史文化研究所の原田博二所長に、坂本龍馬をはじめ、幕末の長崎を駆け抜けた維新の志士の志や、長崎の観光のあり方などについて話を聴きました。

長崎歴史文化研究所所長 **原田 博二**

1971年、中央大学大学院修士課程文学研究科国史学専攻修了。2003年、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程単位取得。博士(学術:筑波大学)号取得。専門・研究テーマは日本近世史。長崎市学芸員を経て、2005年10月まで長崎市立博物館長を歴任。

理事長代行　現在、長崎の観光は低迷しておりますので、来年の1月から始まる大河ドラマ『龍馬伝』が起爆剤となって、活性化されることを期待しています。

「龍馬伝」は幕末長崎の時代背景を掘り起こすチャンス!

原田博二所長　長崎にはいろんな歴史が眠っており、その一つが幕末の龍馬に関する部分です。長崎市民の方々は、龍馬という人や幕末の長崎の時代背景をもう一度掘り起こす大きなチャンスだと思います。

理事長代行　長崎では、坂本龍馬は亀山社中(後の海援隊)で活躍しましたが、先生が研究なさった龍馬の人となりを教えてください。

原田所長　龍馬という人はかっこいいというイメージがありますが、子どものときは落ちこぼれでした。泣き虫でしたし、10歳ぐらいまでおねしょが治りませんでした。しかし、近所の道場に通って、剣を身に付けることで自信を持ちました。

理事長代行　龍馬は土佐藩で下の方の階級だったそうですね。

原田所長　当時の勤皇の人たちは、藩校などできちんと教育を受けていましたが、龍馬はいじめられ、塾にも通いませんでした。しかし、三つ年上の乙女姉さんが彼を教育して、鍛えました。彼は人の言うことをよく聞き、それを理解し、自分のものにするという才能がありましたので、いいものをどんどん吸収していきました。しかし、もう少し社会経験でもあれば、うまく世渡りをして、33歳で亡くなることはなかったという気がします。それだけまじめで、一途に日本のことを思っていた人物だったと思います。

理事長代行　私は龍馬のことは、司馬遼太郎さんの『竜馬がゆく』を読んで知っているぐらいですが、若くして当時の日本を動かした龍馬はすごいなと思っています。仮定の話ですが、33歳で亡くなっていなかったら、明治以降はどうなっていたでしょうか。

龍馬は長崎を舞台に世界に羽ばたく夢を抱く

原田所長　さあ、どうなったでしょう。彼は慶応3年(1867)11月15日に暗殺されました。その1週間前、陸奥宗光に「新しい時代になったら長崎を舞台に大いに海外に羽ばたこう」というような意味の手紙を書いています。龍馬は長崎人ではないけれど、長崎をこよなく愛して、長崎を一つの舞台として大いに活躍しようという気持ちがあったわけです。

坂本家の本家は、才谷屋という土佐を代表するような豪商です。龍馬は亀山社中という商社を長崎で立ち上げますが、これは侍の発想ではありません。ほかの勤皇の人たちが明治政府の役人となって出世をしましたが、彼は半分商人の血があったので、役人にはならなかったでしょう。彼が生きていたら民間で活躍し、とてつもない大きな会社ができたのではないかと、希望も込めてそういう思いを持っております。ですから、本当に残念でしたね。

理事長代行　岩崎弥太郎が三菱を創設しますが、もし龍馬が生きていたら、それが違った形になっていたでしょう。

原田所長　想像するだけも楽しいですね。あの三菱以上の会社ができたのではないか、龍馬だったらそれが本当にできたのではないかという気がします。

理事長代行　龍馬が長崎に居たのは、人生の中でそんなに長い期間ではありませんので、『龍馬伝』でどのように長崎が取り上げられるのかが気になるところです。

原田所長　慶応元年(1865)閏5月頃に社中(亀山社中)を立ち上げてから、彼が亡くなるまでの2年8ヵ月が長崎にいた期間です。しかしその間、長崎にじっくりと腰を据えていたのは180日ほどしかありませんでした。長崎を拠点にして、長州、薩摩、京都、大坂を行き来していました。土佐藩を脱藩後、実家に帰ったのは亡くなる1ヶ月ぐらい前の1回だけでしたので(5年半ぶり)、そういう意味では、『龍馬伝』では長崎が大きな舞台になると思います。

理事長代行　長崎歴史文化博物館でも、来年1月9日から、『龍馬伝』にちなんで、長崎奉行所龍馬伝館を館内に開設するとお聞きしておりますが、これは今後1年間、常設展示されるのでしょうか。

来年1月、長崎歴史文化博物館に「長崎奉行所 龍馬伝館」

原田所長　そうです。大河ドラマ『龍馬伝』を紹介できるように、実際に撮影で使用したものを持ち込んで再現展示します。当館で所有する関連資料も展示します。また、皆さんに龍馬について理解してもらおうということで、関連講座やいろんなイベントを企画しております。本当にこれから1年間、龍馬づけですよ。

理事長代行　『龍馬伝』を機に、他県から多く方が訪れることを期待しているのですが、そういう方にたちにリピーターになってもらう方策は何かありますか。

原田所長　やはり本物を提供するということです。今の観光で来られる人たちは目が肥えていますし、知識もとてもおあります。変なことはすぐ見破られます。歴史上の舞台があって、それを実証する史跡などがある。本物にまさるものはありません。『龍馬伝』の放送が終わっても、長崎に行けばすごいものが見られるぞと思っていただけたら、「また長崎に行ってみよう」ということにつながっていくと思います。

長崎には世界が注目する歴史と文化がまだ眠っている

理事長代行　話は変わりますが、今の県庁があるところは、昔は奉行所でしたね。

原田所長　長崎開港以前は、諏訪神社の三社の一つ、森崎の神様がお祀りしてありました。長崎開港とともに岬の教会(後の被昇天のサンタ・マリア教会)ができました。その後、割符会所になりました。

そのころは、今のNTT西日本の場所に奉行所がありました。しかし、10代の竹中采女正(うねめのかみ)という奉行は、126名の長崎奉行の中ではワースト1と言われるほど、横暴で、わがままな奉行でした。そこで、長崎奉行を2人にして、今の県庁の敷地の浜町側を東役所、大波止側を西役所として、奉行所を二つ造りました。しかし、火事になると共倒れになるというので、東役所を立山に移しました。

今の県庁は、明治維新まで、長崎奉行所の西役所が置かれており、非常に由緒がある、歴史的にも貴重な場所でなんです。

理事長代行　県庁舎移転による跡地の利用は、そういった歴史を踏まえて活用していただきたいですね。長崎は開港から400年の歴史がありますから、それらを掘り起こしていけば、観光に生かせる資源がたくさんあるということですね。

原田所長　歴史の中で、ある部分だけが今、顕在化しています。地下に眠っているものを掘り起こすという作業は、歴史文化博物館が中心となって行っていきたいと思っています。

長崎はいち地方というだけではなく、世界が注目する歴史や文化を有しています。そのため、多くの研究業績が蓄積されていますが、肝心の基本的な通史がありませんでした。そこで、田上市長が『新長崎市史』の編さんを指示されて、市役所内に長崎市史編さん室を設置しました。少し時間がかかりますが、誰もが興味を持って読めるような、古代・中世・近現代の長崎市の歴史(通史)を刊行する予定です。

理事長代行　長崎市を盛り上げていくために私たち若い人に期待されることをお聞かせください。

市民力が高まれば観光資源である歴史遺産が生きてくる

原田所長　やはり市民力ですね。一部の人だけではなく、市民全体で盛り上げていく。市民力があふれるまちは、観光で来られた人に「長崎は違うぞ」と感じてもらえると思います。

例えば「長崎さるく」は、市民が観光客に市内の史跡を案内します。こういうまちは他にはありません。このさるくガイドをする市民が、自分の言葉で、自分の気持ちを込めて話すことで、観光客の方がその熱意にほだされて、坂本龍馬が歩いたその時代の雰囲気に本当に入り込んでいくのです。そのためには、歴史を詳しく理解することが必要になりますが、本物という素材があり、それを案内する市民の力によって、観光資源である歴史遺産が大いに生きる、それがひいては長崎市を活性化することにつながるのではないかと思います。

理事長代行　今回、特に龍馬がクローズアップされていますが、龍馬以外にも長崎で活躍された方がいらっしゃいますね。

「長崎に行くと、いつも新しい何かが待っている」に期待

原田所長　岩崎弥太郎、本木昌造、上野彦馬は有名ですね。

平和なときに活躍できる人と乱世の時代に活躍できるタイプの二つがありますが、龍馬やグラバーなどは後者と言えます。明治維新後、龍馬に続く人たちは、明治政府を組織でもって動かしました。これもまた、新しい時代の到来だったわけです。

少し話が変わりますけども、『龍馬伝』を機に、風頭公園にある坂本龍馬の銅像が注目され、道路も整備されました。8月には伊良林の亀山社中記念館がリニューアルされ、「長崎さるく」には「龍馬が見上げた長崎の空コース」ができました。ここで、別の側面に注目していただきたいのです。

寺町には、龍馬たちを支えた長崎町人たちのお墓や、坂本龍馬の片腕として亀山社中を切り盛りして、切腹をした近藤長治郎のお墓も小曽根家のお墓の中にあります。江戸・明治時代の寺町や筑後田・玉園町の後山にある墓地群は、大変な文化財、歴史的な遺産であります。

例えば女性事業家の先駆者である大浦慶にしても、油屋町にある碑を見るよりも、大浦家のお墓に行くと、大浦家の力、お慶の人となりが見えてきます。高島秋帆の高島家や後藤宗太郎の後藤家の墓地については市指定の史跡になっていますが、今申し上げたお墓のほとんどが無縁仏に近い状態で、非常に荒れています。それをぜひ文化財にしていただきたいと運動をしています。

これらの墓地を私たちが定期的に清掃すれば、道なども明るくなって、近藤長次郎やシーボルトゆかりのお滝、おイネのお墓にもすぐ行けますので、新しい観光ルートとして脚光を浴びると思っています。

理事長代行　JCでは先賢顕彰祭りを開催しておりますが、観光客や市民に完全に浸透するのはまだまだ難しいと思います。今回は長崎出身の福山雅治が主演でかなり視聴率も上がると思いますので、これをきっかけに、子どもたちや若い世代が、龍馬を初めとする長崎にゆかりを持つ賢人に興味を持って、歴史文化を学んでほしいと思います。

原田所長　一つ申し上げておきたいのは、『龍馬伝』は映像の世界ですから、福山さんを見て龍馬をイメージすると思いますが、史実を市民自身がきちんと認識しておく必要があります。

もう一つ、幕末動乱期、長崎に来た龍馬たちは確かに活躍したけども、本当に支えたのは、長崎の我々の先祖、先輩であるということを認識すれば、さらに歴史の厚みというのは増していくと思います。長崎には新しい何かが常にある。その舞台、窓口になることを期待しています。

社団法人長崎青年会議所
●創　立／昭和27年12月1日　●承　認／昭和28年2月7日
●認証番号／36番　●理事長代行／梁瀬　正輝
●事 務 局／〒850-0874　長崎市魚の町3番21号(マリンハイツ長崎202号)
TEL.095-825-2709 FAX.095-822-5399
E-mail:office@nagasaki-jc.jp
●会 員 数／162名　●編　集／(社)長崎青年会議所　広報委員会